



## 中央新幹線長野県駅(仮称)新設工事に係る計画書に対する助言をJR東海に通知しました

リニア中央新幹線に係る計画書に対する県の助言を、令和7年1月27日付けで東海旅客鉄道株式会社(JR東海)に通知しました。

### 計画書の概要

事業者	東海旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 丹羽俊介
計画書の名称	中央新幹線長野県駅(仮称)新設工事における環境保全について
工事概要	工事施工ヤード整備工、高架橋・橋りょう・土構造、河川・道水路付替え等

※計画書については、JR東海のホームページにおいてご覧いただけます。

<https://company.jr-central.co.jp/chuoshinkansen/efforts/nagano/plan.html>

### 県の助言の内容

別添のとおり

### 【参考】

#### ○計画書とは

JR東海が、リニア中央新幹線建設工事に係る具体的な工事計画に基づき環境保全措置を具体化したもので、その概要を工事説明会で地元の皆様に対して説明したのち、関係自治体に送付、公表されます。

今回の計画書は、長野県駅(仮称)新設工事における環境保全について取りまとめられたものです。

#### ○県の助言とは

計画書に対して、事業の実施に伴う環境への影響が最大限回避・低減されるよう、環境影響評価技術委員会・地元自治体からの意見聴取及び住民等の意見募集を実施した上で、環境保全の見地から助言を行うものです。



くらしの足元、ふと見つめ直す。  
そこからはじまる暮らしの  
ゼロカーボンシフト「くらしふと」

くらしふと信州 | WEBサイトはこちら



(問合せ先)  
担当 環境政策課環境審査係 塩入、伊東  
電話 026-235-7163(直通)  
026-232-0111(代表)内線 2782  
FAX 026-235-7491  
e-mail kankyo@pref.nagano.lg.jp

## 助言の概要

### 【全般】

工事の実施に当たっては、地域住民の生活環境及び自然環境への影響をできる限り回避・低減するよう求めました。

### 【土曾川橋りょう橋脚基礎工事】

今回、要対策土を使用する計画が示されたため、工事の実施に当たっては、要対策土の飛散・流出を防止し、ヒ素が漏れ出していないか把握できるよう、主に以下の事項の確実な実施を求めました。

- 要対策土の使用時に、要対策土を飛散・流出させないための対策の徹底
- 河川上流や、橋脚付近及び下流の地域での水質調査の実施
- 地下水や河川水の調査結果の速やかで、かつ分かりやすい公表
- 助言を踏まえて見直した計画や対策内容の地域住民への丁寧な説明

### 要対策土とは

土壤汚染対策法に定める土壤溶出量基準（※1）以上の自然由来の重金属等を含んだ土のことです。

基準は、「一生涯(70年)、体重50kgの人が、重金属等が含まれた水を、1日2L毎日飲用しても健康に対する有害な影響がない濃度」として安全側に立って堅めに設定されています。

### 助言のポイント

今回の計画は、橋りょう橋脚基礎部の中詰め材としてコンクリート内に要対策土を封じ込めて使用するものとなっています。JR東海の報告では、要対策土に土壤溶出量基準のおよそ3倍のヒ素（※2）が含まれているため、溶出防止の措置がとられています。

橋脚基礎部は、構造的に十二分な対策がとられていることを県においてもチェックしています。また、雨天時の運搬を避ける等の措置が計画されていますが、今回の助言では、環境保全の観点から、地域の安全・安心が担保されるよう万全を期すため、要対策土が飛散・流出しない対策の徹底や、ヒ素が漏れ出していないことが確実に把握できるよう、水質調査を実施することを求めました。

#### ※1 土壤溶出量基準

土壤汚染対策法に定める、土壤に水を加えた場合に溶出する重金属等の量に関する基準です。ヒ素の基準値は0.01 mg/Lで、長期間の有害物質の摂取を想定して、健康被害の防止の観点から定められています。土壤溶出量基準は土壤に関する基準であり、重金属等が含有土から溶出した時は、河川、地下水で希釈されます。

#### ※2 ヒ素は、岩石・土壤や温泉に広く含まれており、地域によっては河川や地下水での濃度が環境基準値（土壤溶出量基準値と同じ値）を上回ることもあります。